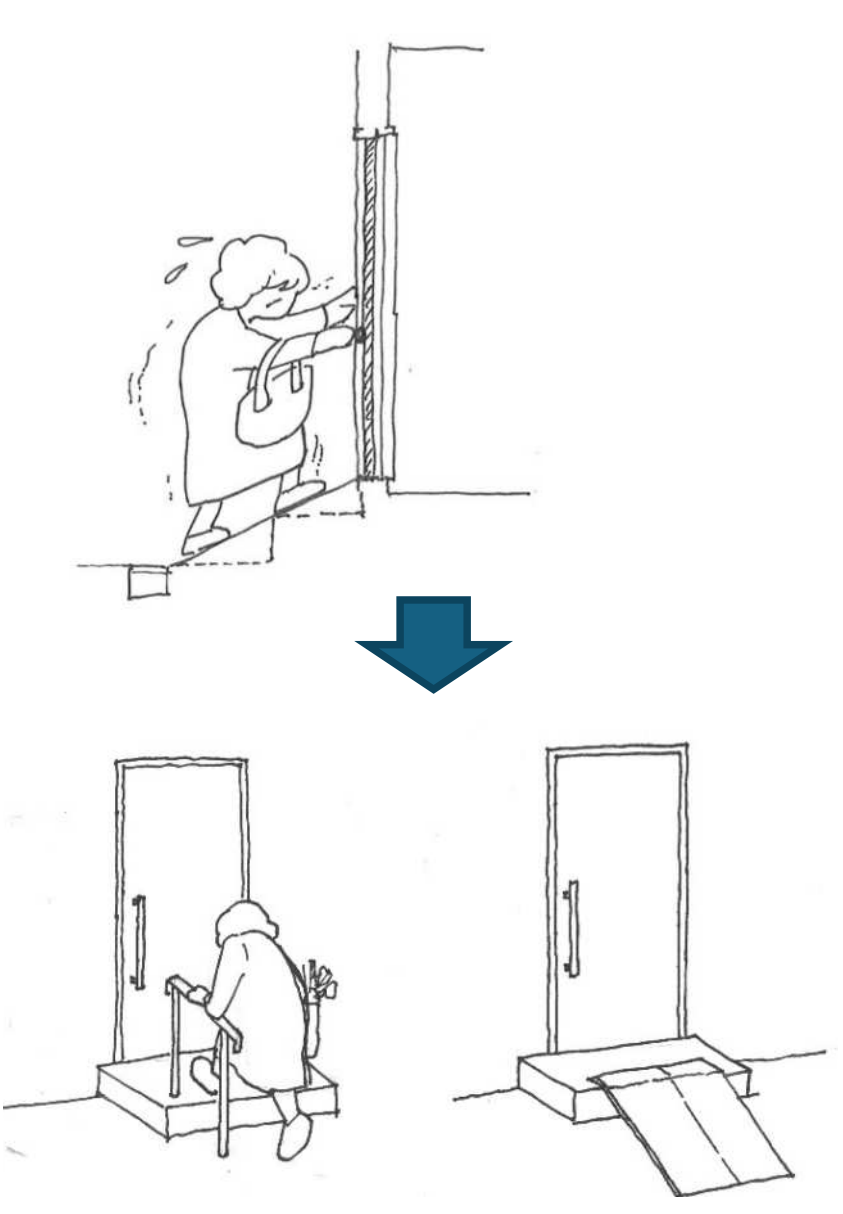


1

玄関扉からの外部スロープは安全！？



玄関先では傘をさしたり、鍵をかけたり立ち止まっての動作が多くあります。
玄関先の急なスロープは体のバランスを崩しやすく転倒の危険性があります。

A. 玄関先に上り下りの為の補助手すりを設
B. 可動式スロープの利用

A. 手すりを設置 B.可動式スロープを利用

アドバイス

玄関扉を開けてすぐにスロープを設置すると、扉の開閉時に体が不安定になり、転倒の危険性があります。
安定して立てるように平らな部分を設けるなど、対象者の歩行状況や介助者の
介助能力に合わせて検討しましょう。

2 段差解消＝スロープという考えは安易では？



足首が装具で固定されている場合など、スロープの上り下りがとても困難になる場合があります。



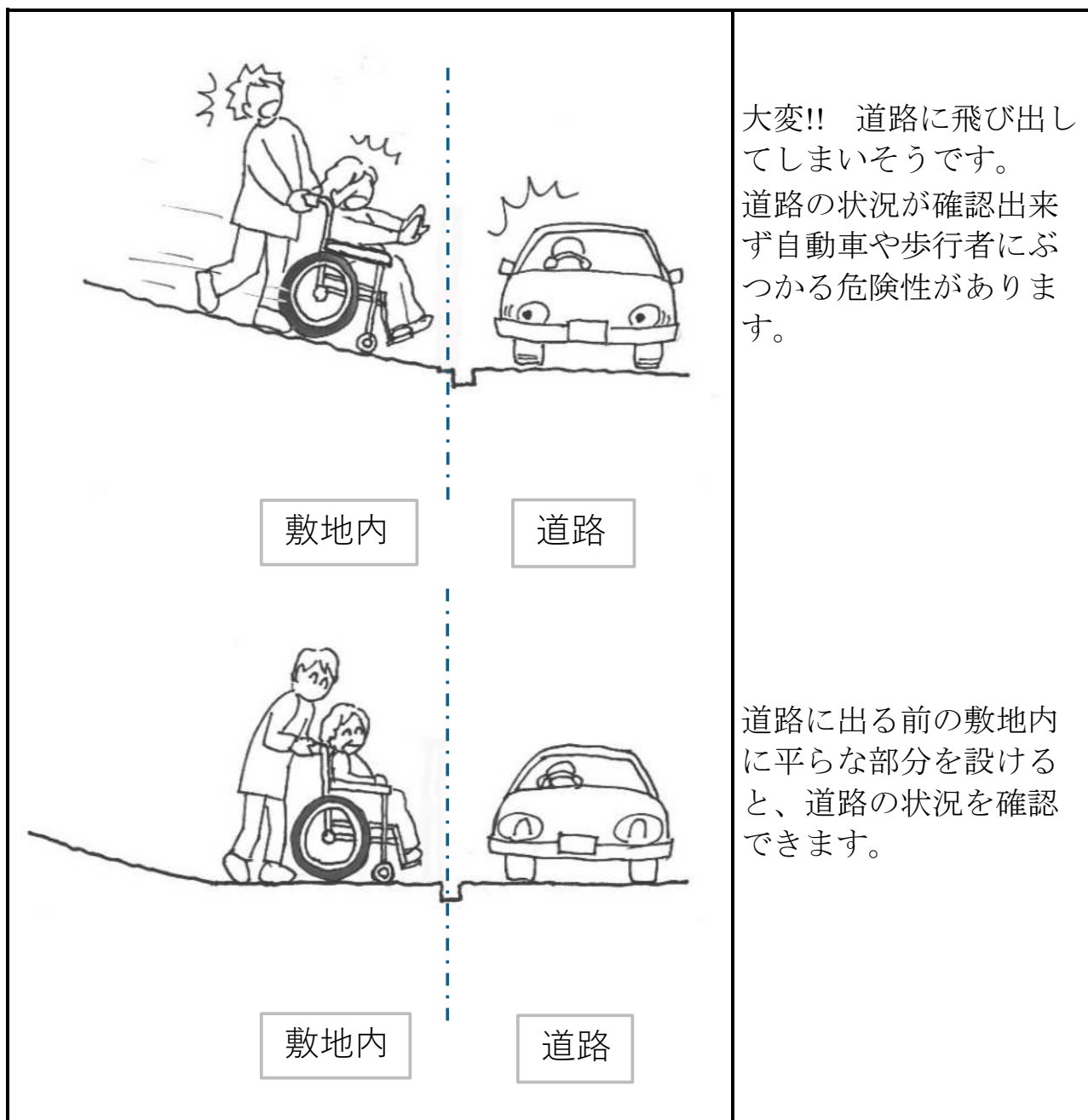
症状によっては、スロープではなく階段のほうが良い場合もあります。

アドバイス

スロープがかえって危険な症状の対象者もいます。
歩行能力によっては、階段を1段ずつ上り下りする方が安全な場合もあります。
対象者の歩行動作を確認しましょう。

3

屋外スロープ、思わぬ危険が・・・



アドバイス

門扉部分からすぐにスロープを設けた場合、内開きの門扉の下端がスロープにあたって開閉が出来なくなります。門扉を外開きにすると敷地から飛び出してしまふことがありますので、門扉の設置場所には注意しましょう。

4

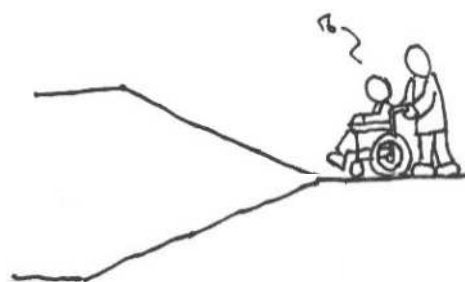
長いスロープ、安心・安全？



長いスロープを車いす
で上り下りすることは
介助者も車いすのコン
トロールが大変です。



スロープの中間や折り
返し部分に平らな部分
があれば安心・安全に
移動ができます

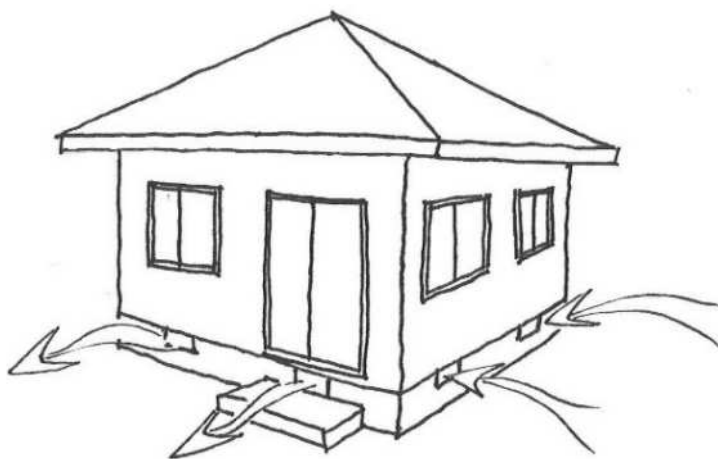


アドバイス

緩やかなスロープにするためにはスロープの距離が長くなります。
また、折り返し部分をスロープ状にすると、
曲がりながら上り下りする動作になり、車椅子操作が困難になります。
スロープは滑りにくい仕上げとし、
脱輪防止のために両サイドに立ち上がり等を設けましょう。
スロープの床面に滑り止め加工を施すと、上り下りが安心して行えます。

5

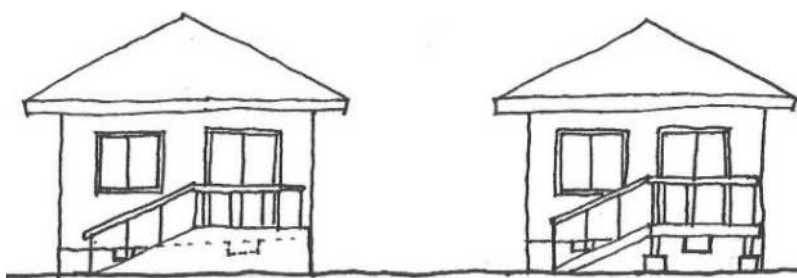
床下換気口を塞いでいませんか？



床下の空気の流れ



床下換気口



スロープ

床下換気は空気の通り道です。

床の湿気防止や土台の腐食防止などのために設けられています。

もし、スロープなどで換気口を塞いでしまう床下の空気の流れが悪くなります。

アドバイス

掃き出し窓からの出入りのためにスロープを設けるときは、床下換気口を塞がないように気を付けましょう。例えば図のようにウッドデッキ材などで換気口を塞がないようにする方法があります。

6

玄関の有効間口を確保する方法



有効な開口幅



有効な開口幅



引違いの玄関

有効な開口幅が狭いと車いすや介助歩行での出入りがしづらいことがあります。

①親子ドアに変更

②アウトセットの引き戸に取替える方法があります。引違戸の片方の有効開口幅が広くなりました。

（もう片方は一部を外壁にふさがれています。）この場合のアウトセットとは外壁の外側に建具を設置する方法です。

アドバイス

介助者が扉の開閉を行えない場合などは、引き戸を親子ドアに取替えて有効開口幅を広げる方法やアウトセットタイプの引き戸に取替えて有効開口寸法を広げることができます。対象者や介助者の移動状況を確認しましょう。